

君守 心一(きみもり しんいち) 性別:男
職業:ボディーガード(ルルブ警官ベース) 年齢:26

STR:11 DEX:12 INT:12 アイア:60
CON:18 APP:11 POW:9 幸運:55[45+AF10]
SIZ:14[15-1] SAN:88/88 EDU:15 知識:75
HP:16 MP:9 回避:24 ダメージボナス:+1d4

[技能] 職業技能点:300/個人技能点:120

[職業技能]
組み付き:80%(25+55) 応急手当:80%(30+50) 心理学:75%(5+70)
言いくめ:60%(5+55) 回避:44%(24+20)
[職業選択技能]
目星:87%(25+50+成長12)

[個人技能]
精神分析:81%(1+70+成長10) 図書館:45%(25+20) 隠れる:42%(10+30+成長2)

[成長技能]
聞き耳:48%(25+成長23) 忍び歩き:20%(10+成長10) 天文学:6%(1+成長5)
クトゥルフ神話:11%(0+1+10)

[所持品]
スマートフォン、財布、腕時計、ロケットペンダント

[2015特徴表]
[1-6]強固な意志:強靱な精神。現在SAN値に+5。
[6-6]急速な回復力:新陳代謝能力。回復ロールの結果に+1。

[プロフィール]
民間警備会社に所属するボディーガード。
一時期職を離れていた影響から現在は一般警備部での警備業務が多く、
身辺警護部としてはヒアリングや顧客の精神的なケアを中心としている。
基本的には朗らかで人懐こく、誰に対しても柔らかな態度で接する。犬。
感情はすぐに顔に出るので表情はころころと変わるが仕事中は我慢する。
身の周りの不審者・不審物の察知や、顧客の心理状況を正しく把握するため
他者の変化や異常に関しては細かなところまで気に掛ける癖がある。
176cm/5.2

[不定の狂気]
『???』:3か月 → 経過済
まだ少し心がざわつく。
『健忘症』:5か月 → 経過済
あの悪夢のような出来事のすべてを忘れる。時折、大切なひとたちのことを忘れる。
『心因性四肢不全』:5か月 → 経過済
強い恐怖を感じると、左腕を除く四肢を動かすことが困難になる。
『確認脅迫』:5か月 → 経過済
死体や死骸、あるいは死が決定したものを目にした際、「忘れてはならない」という強迫的な観念のもと、
直接触れる・撫でる等の接触行為によりそれらがこの世に存在した事実と感触を繰り返し確認したがる。
『魔女狩り』:残り4か月→1か月
超常的な力を異様に恐れその原因を取り除こうとする。神話的事象によるSAN減少+1
『鏡恐怖症』:永続
鏡に対して恐怖を覚える。「鏡を覗く」行為をするたびにSAN-1。

以下経歴につき反転軽ネタバレ

[遭遇した超自然]
/ /

[AF]
・『真実の鏡』:真実を映し出す鏡。現在SAN値に+20。→自宅保管
・『枯れない四つ葉のクローバー』:幸せを呼ぶクローバー。幸運+10。→ペンダントに仕舞い所持

[1]ある病院の話 - [不定の狂気:???] -
一時期職を離れていたが、研修からやり直している。
自分は君守心一だった。ずっと守ると約束をした。
もうすべてが元通りになることはないけれど、抱えた頭は温かかった。
だからどんなにかっこわるくてもさいごまで、すべてを抱えて生きていく。

[2]ある善意の話 - [不定の狂気:健忘症] -
今日は仕事をして、家に帰った。それだけ。
気が付いたら持っていたこれと、嫌な胸の軽さは、なんだろう。
(大切な人に守られた。大切な人と生きて帰った。
友人に救われた。友人を救えなかった。
おれはまた、手放したものを手離した。)

[3]ある夜の話 -
おれが失くした何か大事なものを もっていた、誰かと約束をした。
この手紙を必ず届けるよ。忘れるおれを許さないで。またね。
(幽霊と喉からエンジン音を発するヒヨコを見たのは初めてだった。
友人と再会の約束を交わした。きみをなかったことにするために、
きみとの約束を果たすために、おれは生きなければならない。)

[4]ある数日間の話 - [不定の狂気:鏡恐怖症] -
体調が悪かった。同僚が死んだ。
きみのだった机には別の誰かが座っている。鏡に映るおれは生きている。
(おれが忘れていた兄さんは、これを聞いたら怒るだろうか？
今となっては分からないが、あの日の結末は君守心一が選んだことだ。)

[5]ある夢の話 -
奇妙な空間で自分を見た。自分のために自分を救った。
生きている限りは逃れられないのだと知った。
...今は少しだけ身を預けて眠ろう。そうしないと、生きていけないから。

[6]ある施設の話 - [不定の狂気:心因性四肢不全] -
守る人たちと一緒にとある施設を彷徨った。
背中を支えて、背中を押されて、言葉を貰って、頼って、頼られた。
今も時たま消える大切なものに願ったことを覚えている。
だから迎えに行くために、何度でもきみの名前を呼ぶ。
(あの時思い出したことも、抱いた気持ちも本物だった。
取り戻した彼らの名前も呼んで、ちゃんとお礼を言わなきゃいけない。)

[7]ある会社の話 -
モニター試験に参加した。知り合いと当選なんてすごい確率だ。
終わった頃なぜかすべてを思い出した。不思議と心は穏やかだった。
(成せなかったことを嘆いたところで過去が変わるわけじゃない。
後悔は消えない。思い出せば苦しくて仕方がない。
でもそれよりも、おれはこんなさまで今ここに生きているおれとして、
何度忘れてもそばにいてくれた、今隣にいる彼女を守りたい。)

[7.5]ある日の話 -
疲れだろうか、また心配をかけてしまった。
きみから切り出したその理由も、いつか共に背負いたい。
そしていつまでも言わずいつまでも、あなたの隣にいたいことを願う。

[8]ある雪の日の話 - [不定の狂気:確認脅迫] -
雪山で遭難した。二人の友人に...きつと心を守られた。情けない。
ならばおれが、このぐらつく心でするべきことは覚えていること。
あの日のことを。あの真実を。約束を。彼らの在った事実を。忘れてはいけない。
忘れてはいけない。

[8.5]飲み会の話 -
仕事帰りに飲みに行くような友人ができた。できたんだけど...
お、お願いだから忘れて～！

[9]ある少女の話 -
閉じ込められた先で不思議な人と出会った。大切な友人が増えた。
ただあの人を想う心を許してくれた。幸せだ、と言ってくれた。
...きみの顔を思い出す度、不思議といいことがありそうな気がするんだ。
弱くともあの人を照らす灯であれる幸せを、おれも願ってもいいのかな。

[10]ある の話 - [不定の狂気:魔女狩り] -
失いたくなかったから取り戻した。
あまりに多くのものに触れた。あまりに多くを傷つけた。
きつと守るだけではないけないのだ。
おれはあなたが笑って生きる世界のために、何だってしてみせる。

[11]ある世界の話 -
不思議な世界に閉じ込められた。
驚いて相当焦ってしまったけど、なんとかなってよかった...
やっぱり、彼女は強いひとだ。支えるくらいにはなれるだろうか。

[12]ある喫茶店の話 -
.....

[0]昔の話
「どうかご安心を。命に代えても...なんて、そんなことにならないようにするのが我々の"仕事"です」
「おーっどーしだーしだ？ 顔色悪いよ。ちゃんと寝てる？ オレ？ オレは元気！」

民間の身辺警護専門警備会社に所属するボディーガード。
さほど大きな会社でもないため、VIPや著名人の警護というよりは
個人的なトラブルや海外出張、私立学生の登下校等での警戒の仕事が多く
現場での実務のほか、ヒアリングや顧客の精神的なケアを得意としている。

基本的には朗らかで人懐こく、誰に対しても柔らかな態度で接する。犬。
感情はすぐに顔に出るので表情はころころと変わるが仕事中は我慢する。
一度知り合った良識的な人間は問答無用で守る対象に入れるため、
積極的に知ろう、聞かろうとする。

身の周りの不審者・不審物の察知や、顧客の心理状況を正しく把握するため
他者の変化や異常に関しては細かなところまで気に掛ける癖がある。
しかし反面自分自身のことには無関心かつ大雑把で、自分の身体は働き
人を守るための道具としか思っていない。故に弱音も滅多に吐かない。
例えば骨が折れたら"痛い"より先に"使える所が減った"と思うタイプ。

『正義感に厚く、人の命を守るためならば己の身を顧みない。
どんな時でも人を安心させるために、元気づけるために笑う。』
そんな、亡くなった兄の性格を模して振る舞っている。

幼少時、誘拐・立てこもり事件に巻き込まれたことがあり
身を挺して誘い出してくれた兄のことが忘れられない。兄は警察官だった。
あの人が生きていれば、もっとたくさんの人を救えただろうに。
ならば、オレがあの人になろう。あの人の代わりにはひとを守ろう。
オレはきつとあの時死んだのだ。だからもう、何も恐れることはない。

[]
頭屋灯籠 は大切な人、守ると決めた人です。
灯名栴佳宵 は友人です。
一六三 は友人です。
七七七七七七 は友人です。
夜叉間朱 は知り合いです。
エヴゲーニ・コーシチカ は知り合いです。